

2017年7月16日(日)

説教:「問いかけるイエス」

聖書:ルカによる福音書15:1~7

沖縄とアイヌ民族にはいくつかの共通点があります。かつて武器を持たず、自然と共に生き、広く交易を行い、平和で豊かな生活を保っていた民。しかし当時の幕府による不公平な搾取、強引な同化政策によってアイヌは平和な生活が破壊されます。伝統的な儀式は禁止され、日本語を強制され、名前も日本風に変えさせられました。

自分だけが得をしたい。そのために相手の犠牲の上に自分の平和が成り立つのは当然のこと。そのような人間の貪欲な思いが平和とは程遠い世界をつくってきたのですが、それは昔も今も全く変わっていません。

イエスは徴税人や「罪人」と呼ばれていた人々に、神の国の到来の喜びを伝えていました。それを見て、ファリサイ人や律法学者たちはイエスを激しく非難します。ファリサイ人や律法学者たちは、極めて律法に忠実に、安息日や断食を守っていました。律法を守れば守るほど神の祝福を豊かにいただける…それは当時のユダヤ社会の常識でした。彼らは、自分たちを社会の中で特別な者と考えていました。

ですから、差別され見下され、社会の端っこに追いやられていた人々と食事を共にし、彼らにこそ神の国を宣べ伝えたイエスの行動に、ファリサイ人や律法学者たちは「律法を守らなくても神に受け入れられるだと？神を冒瀆している！」と怒ります。また律法を守っているからこそ手にしている自分たちの今の特権を手放してなるものか、と焦ります。

イエスはそのような彼らに譬えを語ります。「あなたたちのうちの誰かが100匹の羊を持っていて、そのうちの1匹を失ってしまったとしたら、99匹を荒野に打ち捨てて、失われてしまったその1匹が見つかるまで、それを求めて歩いて行かないだろうか」。

99匹を残してまでも、失ってしまった1匹のために、1匹のいるほうに向かって歩いていく人。最後の最後まで探し求める人。実はこの羊の持ち主は私たちの救い主のことです。そのような神の姿をみて、あなたはどう感じるか。マイリリティ(少数派)に寄り添う神の姿をあなたはどう見るか。ついに探し出し、自分の身元に引き寄せた神のこの大きな喜びをあなたはどう理解するのか。イエスは問いかけます。

聖書は読めば読むほどに神の国のご支配と現実の落差に気付かされます。しかしそこにイエスからの、私たちへの問いかけがあります。問いかけに答え、応答として行動していける一週間でありますように。(國分美生)